アイセルシュラホール観光拠点化基本構想（案）についてのパブリックコメント実施結果

１．パブリックコメント実施状況

（１）　意見募集期間：令和５年２月 27 日（月）～ 令和５年３月 12 日（日）

（２）　提出者数：２名

２．お寄せいただいたご意見と市の考え方

番号	お寄せいただいたご意見	ご意見に対する市の考え方
1	シュラホールの展示は、有料の博物館と比べても遜色のない、とても充実した内容です。ただ、古市古墳群関係は羽曳野市と共同で別に独立した専門的施設を建て、シュラホールの展示は、直近の葛井寺や井真成を中心に、国府遺跡、道明寺天満宮なども交えた通史的（古墳も簡単に含める）なものにしてはどうでしょうか。 また同施設は、藤井寺駅から少し離れた印象はありますが、実際の距離はさほど遠くありません。むしろ、駅から商店街を通ってホールまでの道を一種のプロムナードに見立てて、その整備計画をすすめるべきかと思います。（例えば、葛井寺以外の三十三カ所の観音寺の中には、伽藍までの通路に他の三十二カ寺の仏像のレプリカを置いていたりします。）	今回の基本構想は、アイセルシュラホールについて、古墳ミュージアム（仮称）として古市古墳群周遊ルート上の観光拠点施設としてのコンセプトや必要な機能を取りまとめることを目的としています。このことから、展示としては古市古墳群を中心とした展示を考えています。そして、古市古墳群築造前と同古墳群終焉後の歴史についてもあわせて展示することを考えています。古市古墳群以外の展示につきましては、今後、既存施設も十分に活用した検討を行っていきます。羽曳野市との連携につきましては、今後も両市で連携した取り組みを積極的に推進します。 また、近鉄藤井寺駅からアイセルシュラホールまでの誘導につきましては、本文第６章 観光案内計画のアイセルシュラホール周辺のサイン及び動線計画においても、藤井寺一番街商店街を通るルートを最も主要なルートと想定してサイン計画案を示しています。いただきましたご意見を参考に商店街と連携し検討していきます。
2	アイセルシュラホール観光拠点化基本構想に賛成する立場で、追加の要望を意見として述べさせていただきます。P33、P49、および P50 に関連することです。これらのことに関して現在は主に藤井寺市観光ボランティアの会がその任務にあたっており、将来もその継続が想定されています。そこで付け加えなのですが…　若者たちの参加を促す取り組みを盛り込めないでしょうか？例えば中高生と四天王寺大学の学生が連携して（仮）アイセル・サポーターズ・クラブを	アイセルシュラホールの観光拠点化において、市民と観光客との交流が重要であると考えています。藤井寺市観光ボランティアの会の方々にその中心的な役割を担っていただきたいと考えていますが、いただきましたご意見の通り、そこに学生をはじめとした若い世代の方々が参画することで、継続性のあるさらなるにぎわいの創出につながることと思われますので、下記のとおり、一部の文言や表現について修正することとします。

	結成してはどうでしょうか？彼らの活動によって高齢化する観光ボランティアガイドを若返らせるのです。私は観光案内やガイドを率先して若者がおこなうことには多様な意義があると思います。（もちろん我々もノウハウをしっかり伝え、活動をしっかりと盛り上げていきます。）類が友を呼ぶのです。若者が若者を呼ぶのです。もちろんいい意味で!!!ややもすると観光拠点つくりは「場」作りに終始しがちです。しかし、それだけでは血が通いません。若い血が藤井寺市を若返らせ、アイセルを若返らせるのです。教育委員会の社会教育、文化財、学校教育も関わるし、大学の専門性も必要です。また、具体的な活動を指導・運営する観光ボランティアガイドの参画も必要です。けれどもその苦労はきっと報われると思います。なんとか、そのような青少年の参加を促す取り組みを構想に取り入れていただけませんか？	P50 6-2　市民と観光客との交流の創出 ・ 地域の事業者や団体、大学をはじめ、まちづくりに関わる人々にワークショップや研究の場を提供し、その成果及び過程が観光客のより充実した旅につながるしくみづくりを行う。 ⇒ ・地域の事業者や団体、大学をはじめ、まちづくりに関わる人々にワークショップや研究の場を提供するとともに、学生をはじめとした若い世代の方々の参画を促し、その成果及び過程が観光客のより充実した旅につながるしくみづくりを行う。